

令和 7 年（2025 年）上半期火災・救急・救助の概要について

火 災 概 要

令和 7 年上半期の火災発生件数は 6 件で、前年同期と比べ 5 件の減少となっている。火災種別ごとに前年同期と比較すると、建物火災が 4 件で 2 件の減少、車両火災が 2 件で増減なし、その他の火災が 3 件の皆減となっている。

火災による焼損棟数は 8 棟で、前年同期と比べ 3 棟の減少となっている。これを焼損程度ごとに前年同期と比較すると、全焼が 4 棟で 1 棟の増加、半焼が 1 棟の皆減、部分焼が 2 棟で増減なし、ぼやが 2 棟で 3 棟の減少、焼損面積は床面積が 4 1 1 平方メートルで 1 9 1 平方メートルの増加、表面積が 1 0 平方メートルの皆増となっている。

火災による人的被害は死者が 1 人の皆増となっており、負傷者が 3 人で 2 人の増加となっている。

り災世帯については、全損が 4 世帯で 2 世帯の増加、小損が 3 世帯で 3 世帯の減少、り災人員は 2 1 人で 5 人の増加となっている。

火災損害額合計は 7 , 2 9 4 万 8 千円で、前年同期と比べ 6 , 6 0 7 万 9 千円の増加となっている。

これを損害種別ごとに前年同期と比較すると、建物損害が 6 , 9 3 9 万円 5 千円で 6 , 2 5 2 万 7 千円の増加、車両損害額が 3 5 4 万 6 千円の皆増、その他の損害が 7 千円で 6 千円の増加となっている。

出火原因の状況については、こんろ、その他が各 2 件で、電気機器、配線器具が各 1 件となっている。

今後もさらに火災発生防止の徹底を図り、防火広報やパトロールの強化及び警察との連携強化に努めるとともに、市民や各事業所と一体となって、放火されない環境づくりに取り組み、安心・安全な暮らしの実現を目指す。

火災状況

区 分 \ 年 別			令和7年 (2025年) 上半期	令和6年 (2024年) 上半期	前年との 比 較
出 火 件 数 (件)	建 物 火 災		4	6	△ 2
	林 野 火 災				
	車 両 火 災		2	2	
	船 舶 火 災				
	航 空 機 火 災				
	そ の 他 の 火 災			3	△ 3
	計		6	11	△ 5
焼 損 棟 数 (棟)	全	焼	4	3	1
	半	焼		1	△ 1
	部 分	焼	2	2	
	ぼ	や	2	5	△ 3
	計		8	11	△ 3
焼 損 面 積	建 物 (㎡)	床 面 積	411	220	191
		表 面 積	10		10
	林 野 (a)				
人 的 被 害 (人)	死	者	1		1
	負	傷 者	3	1	2
り 災 世 帯 (世帯)	全	損	4	2	2
	半	損			
	小	損	3	6	△ 3
り 災	人 員 (人)		21	16	5
損 害 額 (千円)	建 物 損 害		69,395	6,868	62,527
	林 野 損 害				
	車 両 損 害		3,546		3,546
	船 舶 損 害				
	航 空 機 損 害				
	そ の 他 の 損 害		7	1	6
	爆 発 損 害				
	計		72,948	6,869	66,079
1 日平均損害額 (千円)			403	38	365
市民 1 人あたりの損害額 (円)			1,017	95	922
火災 1 件あたりの損害額 (千円)			12,158	624	11,534
建物火災 1 件あたりの焼損床面積 (㎡)			103	37	66
出 火 率 (件／万人)			0.8	1.5	△ 0.7

△は減少を示す

救 急 概 要

令和 7 年上半期の救急出動件数は 2, 250 件、搬送人員は 2, 085 人で前年同期と比べ出動件数は 131 件、搬送人員は 99 人増加し、1 日平均 12.4 件の出動となっている。

事故種別ごとでは、急病 1, 665 件、一般負傷 357 件、交通事故 86 件で全体の 93.7% を占め、以下、転院搬送 73 件、労働災害 14 件、運動競技 13 件、自損行為 9 件、火災、加害が各 3 件、その他 27 件となっている。

事故種別ごとに前年同期と比較すると、急病 156 件、運動競技 7 件、転院搬送 5 件、一般負傷 4 件、火災 2 件、その他 1 件の増加に対し、交通事故 39 件、労働災害 2 件、水難、加害、自損行為が各 1 件の減少となっている。

搬送人員 2, 085 人の傷病程度については、死亡 36 人、重症 37 人、中等症 869 人、軽症 1, 143 人であり、入院加療を必要としない軽症者が全体の 54.8% を占めている。

事故種別ごとに軽症者の占める割合を見ると、交通事故 85.5%、一般負傷 62.2%、急病 52.9% となっている。

医療機関への収容先については、城陽市内 42.7%、久御山町内 23.5%、宇治市内 20.7%、京田辺市内 9.0%、京都市内 3.3%、その他の京都府内 0.6%、他府県が 0.2% となっている。

市民等に対する応急手当普及啓発活動は、上級救命講習の実施はなく、普通救命講習 I（3 時間）を 11 回 223 人、その他の講習を 27 回 1, 293 人に対して実施している。

救急出動状況は、前年同期と比べ出動件数で 6.2% 増加、搬送人員で 5.0% の増加となっている。搬送人員のうち高齢者の占める割合は 70.3% となっており、前年同期と比べると 1.9 ポイント減少しているが、依然として 70% を超える高い割合であり、高齢化社会を象徴する状況が続いている。

また、搬送人員に占める軽症者比率が高いことから、今後も救急車の適正利用について啓発活動を続けるとともに、救急隊現場到着までの空白時間を埋めるため、応急手当普及啓発活動をさらに推進し、救命率の向上に努める。

救急状況

年 別 区 分		令和 7 年 (2025年) 上半期			令和 6 年 (2024年) 上半期			前年との比較			
		出動件数 (件)	うち 管外 (件)	搬送人員 (人)	出動件数 (件)	うち 管外 (件)	搬送人員 (人)	出動件数 (件)	うち 管外 (件)	搬送人員 (人)	
事 故 種 別	火 災	3		2	1		1	2		1	
	自 然 災 害										
	水 難				1			△ 1			
	交 通 事 故	86	1	83	125	2	118	△ 39	△ 1	△ 35	
	労 働 災 害	14		14	16		16	△ 2		△ 2	
	運 動 競 技	13		15	6		6	7		9	
	一 般 負 傷	357		341	353		340	4		1	
	加 害	3		3	4		4	△ 1		△ 1	
	自 損 行 為	9		8	10		7	△ 1		1	
	急 病	1,665	2	1,546	1,509		1,426	156	2	120	
	そ の 他	転 院	73		73	68		68	5		5
		医 師 搬 送									
		資 機 材 搬 送									
		そ の 他	27			26			1		
合 計		2,250	3	2,085	2,119	2	1,986	131	1	99	
不 搬 送 件 数 (件)		168			142			26			
出 動 延 べ 員 (人)		6,930			6,679			251			
1 日 平 均 出 動 件 数 (件)		12.4			11.6			0.8			
1 日 平 均 搬 送 人 員 (人)		11.5			10.9			0.6			
1 日 最 多 出 動 件 数 (件)		28			21			7			

△は減少を示す

傷病程度別救急搬送人員状況

事故種別 傷病程度別	急 病 (人)	交 通 事 故 (人)	一 般 負 傷 (人)	そ の 他 (人)	計 (人)	比 率 (%)
死 亡	34		2		36	1.7
重 症	35	1		1	37	1.8
中 等 症	659	11	127	72	869	41.7
軽 症	818	71	212	42	1,143	54.8
そ の 他						
計	1,546	83	341	115	2,085	100.0
軽 症 者 比 率 (%)	52.9	85.5	62.2	36.5	54.8	

※比率については、項目毎に四捨五入しているため、合計の一致しない場合がある。

収容先別救急搬送人員状況

事故種別 収容先別	急 病 (人)	交 通 事 故 (人)	一 般 負 傷 (人)	そ の 他 (人)	計 (人)	比 率 (%)
城 陽 市	647	39	176	29	891	42.7
久 御 山 町	373	21	76	19	489	23.5
宇 治 市	331	8	54	39	432	20.7
京 田 辺 市	135	15	26	11	187	9.0
京 都 市	49		5	14	68	3.3
そ の 他 の 京 都 府 内	9		4		13	0.6
他 府 県	2			3	5	0.2
計	1,546	83	341	115	2,085	100.0

※比率については、項目毎に四捨五入しているため、合計の一致しない場合がある。

年齢別救急搬送人員状況

事故種別 年 齢 別	急 病 (人)	交 通 事 故 (人)	一 般 負 傷 (人)	そ の 他 (人)	計 (人)	比 率 (%)
新 生 児	2				2	0.1
乳 幼 児	60	2	11	2	75	3.6
少 年	31	8	12	19	70	3.4
成 人	359	41	38	34	472	22.6
高 齢 者	1,094	32	280	60	1,466	70.3
計	1,546	83	341	115	2,085	100.0

※比率については、項目毎に四捨五入しているため、合計の一致しない場合がある。

新生児：生後28日未満の者

乳幼児：生後28日以上満7歳未満の者

少 年：満7歳以上満18歳未満の者

成 人：満18歳以上満65歳未満の者

高齢者：満65歳以上の者

救 助 概 要

令和 7 年上半期の救助出動件数は 33 件で前年同期と比べ 6 件の減少、活動件数は 27 件で 4 件の増加、救助人員は 15 人で増減なしとなっている。

事故種別ごとの出動及び活動状況では、火災の出動件数は 1 件で活動件数が 1 件、交通事故の出動件数は 1 件で活動件数が 1 件、建物等による事故の出動件数は 20 件で活動件数が 18 件、その他の事故の出動件数は 11 件で活動件数が 7 件となっている。

事故種別ごとの救助人員及び傷病程度をみると、建物等による事故では 12 人を救助し、中等症が 12 人、その他の事故では 3 人を救助し、中等症 1 人、不搬送が 2 人となっている。

前年同期と比べ救助出動件数は減少しているものの、今後も都市構造の変化により複雑多様化する救助事象に対応するため、救助資器材の整備や訓練を重ね、隊員の知識・技術・体力の向上を図り、安全・確実・迅速な救助活動が展開できるように努める。

救助状況

年 別 事故種別	令和7年 (2025年) 上半期			令和6年 (2024年) 上半期			前年との比較		
	出 動 件 数 (件)	活 動 件 数 (件)	救 助 人 員 (人)	出 動 件 数 (件)	活 動 件 数 (件)	救 助 人 員 (人)	出 動 件 数 (件)	活 動 件 数 (件)	救 助 人 員 (人)
火 災	1	1					1	1	
交 通 事 故	1	1		5	4	4	△ 4	△ 3	△ 4
水 難 事 故				2	2	2	△ 2	△ 2	△ 2
風水害等自然災害									
機械による事故									
建物等による事故	20	18	12	16	16	9	4	2	3
ガス及び酸欠事故				1			△ 1		
破 裂 事 故									
そ の 他 の 事 故	11	7	3	15	1		△ 4	6	3
合 計	33	27	15	39	23	15	△ 6	4	

△は減少を示す

事故別傷病程度状況

傷病程度 事故種別	活 動 件 数 (件)	救 助 人 員 (人)	傷 病 程 度					
			死 亡 (人)	重 症 (人)	中 等 症 (人)	軽 症 (人)	不 搬 送 (人)	そ の 他 (人)
火 災	1							
交 通 事 故	1							
水 難 事 故								
風水害等自然災害								
機械による事故								
建物等による事故	18	12			12			
ガス及び酸欠事故								
破 裂 事 故								
そ の 他 の 事 故	7	3			1		2	
合 計	27	15			13		2	